

平成27年度 事務事業評価シート

1. 基本情報					
事務事業名	子ども読書活動推進事業				
基本目標	豊かな心を育み活躍できるまちづくり				
基本施策	学習機会の充実				
施策	学習の支援をします				
所属名	教育部中央図書館				
事業開始年度	昭和41年度	事業終了年度			
新規継続区分	既存	事務事業類型	ソフト事業	実施計画区分	実施計画事業以外
実施主体	市が実施すべき	市補助金等区分	補助金等なし	外部化等改善	協働
非実施影響	著しい障害	緊急性	一年以内に発生	実施時効果	著しい好影響
根拠法令等	子どもの読書活動の推進に関する法律				
事業概要	「磐田市子ども読書活動推進計画 第2次計画」に沿って、市民が生涯を通じて読書を楽しむ習慣が確立できるよう、乳幼児期から中学生までの成長過程に応じ、本に親しむ環境を整備する。				

2. 主な指標の状況							
項目		区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
活動指標	ブックスタート参加率	計画値	80.00	80.00	80.00	80.00	80.00
		実績値	80.29	0.00	0.00	0.00	0.00
成果指標	ブックスタート参加率	計画値	0.00	80.00	80.00	80.00	80.00
		実績値	80.29	0.00	0.00	0.00	0.00

3. 平成26年度 事後評価結果 CHECK	
事業の方向性	B：現状のまま継続
これまでの見直し及び改善の経過	ブックスタート参加率の改善 ボランティアの積極的活用 学校・幼稚園・保育園等関連機関との連携強化 児童・保護者への読書推進PR
活動単位の評価	ブックスタート（離乳食教室共催）未参加者へのフォロー、参加率10%向上 ボランティア活用によるおはなし会・講話の開催 出前によるおはなし会・講話 年齢別ブックリスト作成、学校・幼稚園・保育園等を通じた対象児童への配布
見直しが必要な項目	ボランティアの一層の活用 小中学校児童への読書推進PR 第二次子ども読書活動推進計画（平成23年度から平成27年度）の検証と次期計画策定

4. 平成27年度 事中評価結果 CHECK・ACTION 平成28年度 事前評価結果 PLAN	
事業の方向性	B：現状のまま継続
活動単位の選択と集中	ブックスタート参加率の一層の改善、ボランティアの支援・積極的活用、学校・幼稚園・保育園等関連機関との連携強化（おはなし会、団体貸出、ガイダンス等の積極的受入）、茶の間読書活動による児童・保護者への読書推進PR
具体的な改革・改善の内容・時期・効果	読書習慣のない子どもたちを対象に関連機関と連携して、団体へのおはなし会や貸出、ガイダンス等のPR、企画を進める 業務軽減のため、既存・新規事業へボランティアを活用する 子どもたちの生活環境を分析し、おはなし会などの事業の開催時期・時間等の見直しを図り、効果的な運用を検討する
活動単位の中長期的な方向性	知識を蓄え心を豊かにし社会の中で生きていくための力を養うため、読書習慣がなかったり図書館を利用する機会のない児童・保護者への積極的な読書推進に努める。

平成27年度 事務事業評価シート

1. 基本情報					
事務事業名	図書館施設地震対策事業				
基本目標	豊かな心を育み活躍できるまちづくり				
基本施策	学習機会の充実				
施策	学習施設の整備・充実を図ります				
所属名	教育部中央図書館				
事業開始年度	平成24年度	事業終了年度	平成27年度		
新規継続区分	既存	事務事業類型	施設等整備	実施計画区分	実施計画事業
実施主体	市が実施すべき	市補助金等区分	補助金等なし	外部化等改善	改善の余地なし
非実施影響	生命財産の危機	緊急性	直ちに発生	実施時効果	安全度向上
根拠法令等					
事業概要	大規模空間吊り天井である中央・福田・豊田図書館の崩落防止補強工事を行う。 年次計画 設計・施工 平成24年度 中央図書館・福田図書館（設計・工事） 平成25年度 豊田図書館（設計） 平成26年度 豊田図書館（工事）				

2. 主な指標の状況							
項目		区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
活動指標	設計委託・工事件数	計画値	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		実績値	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果指標	設計委託・工事件数	計画値	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		実績値	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00

3. 平成26年度 事後評価結果 CHECK	
事業の方向性	事業完了
これまでの見直し及び改善の経過	東日本大震災の被害状況を踏まえ、今後、突発的に起こりうる地震対策として、図書館利用者の安心・安全を確保するため、吊天井などの耐震補強工事を3か年計画で実施する。
活動単位の評価	平成26年度の豊田図書館の大規模吊り天井の耐震改修工事実施により、事業完了。
見直しが必要な項目	

4. 平成27年度 事中評価結果 CHECK・ACTION 平成28年度 事前評価結果 PLAN	
事業の方向性	C：見直し継続
活動単位の選択と集中	平成26年度は、予算措置されている豊田図書館の大規模吊り天井耐震改修工事を実施する。 平成27年度は、最終年度として実施すべき事業（工事等）の再確認及び検証をしていく。
具体的な改革・改善の内容・時期・効果	実施すべき事業（工事等）の再確認及び検証をすることにより、図書館利用者の安全・安心を確保するという事業の基本目的を完結させる。
活動単位の中長期的な方向性	

平成27年度 事務事業評価シート

1. 基本情報					
事務事業名	図書館施設活用事業				
基本目標	豊かな心を育み活躍できるまちづくり				
基本施策	学習機会の充実				
施策	学習施設の整備・充実を図ります				
所属名	教育部中央図書館				
事業開始年度	平成25年度	事業終了年度			
新規継続区分	既存	事務事業類型	ソフト事業	実施計画区分	実施計画事業以外
実施主体	市が実施すべき	市補助金等区分	補助金等なし	外部化等改善	その他改善
非実施影響	著しい障害	緊急性	一年以内に発生	実施時効果	著しい好影響
根拠法令等	図書館法 磐田市立図書館条例 磐田市立図書館条例施行規則				
事業概要	図書資料をはじめ、普段市民が触れることのない特殊資料のコレクションの企画展の開催や、社会教育における学習成果等の発表の場としての展示会を開催する。また、文学講座、視聴覚ライブラリー、天体観測室等を活用した事業を開催し、学習機会の提供及び図書館利用の促進につなげる。				

2. 主な指標の状況							
項目		区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
活動指標	展示室の延べ入場者数 (中央：豊田)	計画値	40,000.00	40,000.00	40,000.00	40,000.00	40,000.00
		実績値	41,997.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果指標	文学講座受講人数(延べ)	計画値	450.00	450.00	450.00	450.00	450.00
		実績値	191.00	0.00	0.00	0.00	0.00

3. 平成26年度 事後評価結果 CHECK	
事業の方向性	C：見直し継続
これまでの見直し及び改善の経過	企画展、一般公募による展示会の開催・図書館資料を活用した文学講座等の開催・児童の体験学習の場として、「子ども図書館クラブ」の開催・視聴覚ライブラリー事業として、16ミリフィルム映写機操作講習会の開催、教材、器材の貸出しの実施・施設の特徴を活かし天体観測会の実施・多くの本に触れられるよう定期的に特設コーナーを設置等により、来館者の増加及び図書館利用の促進を目指してきた。
活動単位の評価	展示室は、活動指標・成果指標の実績値が目標値を上回ることができたが、文学講座は講師の都合等により、開催回数が減少したため受講者数が目標値を下回った。また、豊田図書館で実施している天体観測会については、天井耐震工事の影響により、実施回数が減少したため参加者数が目標値を下回った。
見直しが必要な項目	中央図書館展示室の貸出しについて、固定化されている団体以外にも利用希望が多数あるため、貸出者の決定や展示室の運営方法を見直し、平成27年度から改善する予定。

4. 平成27年度 事中評価結果 CHECK・ACTION 平成28年度 事前評価結果 PLAN	
事業の方向性	C：見直し継続
活動単位の選択と集中	学習機会の提供及び図書館利用の促進につながる企画展、展示会、図書館資料を活用した文学講座、児童の体験学習の場である「子ども図書館クラブ」、16ミリフィルム映写機操作講習会、天体観測会、特設コーナーの設置については、継続して実施していく。
具体的な改革・改善の内容・時期・効果	中央図書館展示室の貸出しについて、固定化されている団体以外の利用希望者への貸出しや展示室の運営方法を平成27年度から見直した。利用希望者の公募枠の拡大や人件費（展示受付の市臨時職員分）、パンフレット等印刷物に係る経費の削減などの効果が期待できる。
活動単位の中長期的な方向性	市民及び来館者への学習機会の拡大、芸術文化に対する意識の高揚、文化活動の場を提供し、図書館利用者の拡大を図るための事業の見直し。 継続事業、新規事業の研究、検討が必要になる。

平成27年度 事務事業評価シート

1. 基本情報					
事務事業名	図書館資料整備事業				
基本目標	豊かな心を育み活躍できるまちづくり				
基本施策	学習機会の充実				
施策	学習施設の整備・充実を図ります				
所属名	教育部中央図書館				
事業開始年度	昭和24年度	事業終了年度			
新規継続区分	既存	事務事業類型	ソフト事業	実施計画区分	実施計画事業以外
実施主体	市が実施すべき	市補助金等区分	補助金等なし	外部化等改善	改善の余地なし
非実施影響	著しい障害	緊急性	直ちに発生	実施時効果	著しい好影響
根拠法令等	図書館法 磐田市立図書館条例				
事業概要	図書館法の設置目的に沿い、図書、記録類などその他必要な地域資料を収集、整理、保存し、市民の利用に供する。図書館の根幹をなす事業である。 電子図書館の実現に向け、またその研究を推進。				

2. 主な指標の状況							
項目		区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
活動指標	蔵書増加数	計画値	21,500.00	26,000.00	0.00	0.00	0.00
		実績値	13,219.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果指標		計画値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		実績値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

3. 平成26年度 事後評価結果 CHECK	
事業の方向性	B：現状のまま継続
これまでの見直し及び改善の経過	図書館システムを活用し、重複購入を避ける工夫をしている。 リクエストによる新刊書購入では、安易に購入するのではなく、複数の担当者の意見を集約し購入。
活動単位の評価	目標とする蔵書増加数との差異は大きいのが、優先度を念頭に置き丁寧な選書を実施している。 貴重な地域資料のデジタル化に着手しているが、市民が手軽に地域資料にふれることができる取り組みであり、今後も継続していく。
見直しが必要な項目	各図書館の特徴が出せるような、資料整備の検討が必要。

4. 平成27年度 事中評価結果 CHECK・ACTION 平成28年度 事前評価結果 PLAN	
事業の方向性	B：現状のまま継続
活動単位の選択と集中	施設の耐震化や老朽化による改修工事を優先せざるをえない状況の中、資料費の有効活用のため、5館連携による効率的な図書購入が必要であると共に、保管する貴重な資料を良好な状態に保つ取組みが求められる。
具体的な改革・改善の内容・時期・効果	赤松文庫を始めとする貴重な資料を適切に保管するためにも、資料の電子化を今後も進めていく。 新館図書の購入については限られた予算を有効に執行できるよう、今後も丁寧な選書を行なう。
活動単位の中長期的な方向性	市民一人あたりの資料購入費と購入冊数は県内平均を下回るが、一人当たりの貸出冊数は県内2位という数字から、費用対効果の面で県内トップレベルと言える。この要因は専門知識を持つ職員や、優秀な嘱託・臨時職員によるものと考えられ、貴重な資料の保存や適切な選書の重要性から、専門知識と資格を有する人材の確保に努めていきたい。

平成27年度 事務事業評価シート

1. 基本情報					
事務事業名	図書館視覚障害者サービス事業				
基本目標	豊かな心を育み活躍できるまちづくり				
基本施策	学習機会の充実				
施策	学習施設の整備・充実を図ります				
所属名	教育部中央図書館				
事業開始年度	昭和52年度	事業終了年度			
新規継続区分	既存	事務事業類型	ソフト事業	実施計画区分	実施計画事業以外
実施主体	市以外で一部可能	市補助金等区分	負担金あり	外部化等改善	協働
非実施影響	一部に障害	緊急性	直ちに発生	実施時効果	一部利便性向上
根拠法令等	郵便法 著作権法 磐田市立図書館条例 磐田市立図書館条例施行規則				
事業概要	視覚障害者への図書館サービスのため音訳・点訳ボランティアの協力による録音・点字図書を作成し、郵送貸出している。 大活字本の整備。 ボランティア勉強会等の実施。 対面朗読の実施。				

2. 主な指標の状況							
項目		区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
活動指標	利用延人数	計画値	2,000.00	2,000.00	2,000.00	2,000.00	2,000.00
		実績値	2,362.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果指標	利用延人数	計画値	2,000.00	2,000.00	2,000.00	2,000.00	2,000.00
		実績値	2,362.00	0.00	0.00	0.00	0.00

3. 平成26年度 事後評価結果 CHECK	
事業の方向性	B：現状のまま継続
これまでの見直し及び改善の経過	リクエスト以外の録音図書等の作成についてボランティアと協議する。 高齢化社会に向けて大活字本の購入量を増やすように検討した。 対面朗読のボランティアを対象にした勉強会の内容を検討した。
活動単位の評価	ボランティアと協議しながら、録音図書の作成を依頼していく。 視力が低下した高齢者に対し、大活字本のPRを検討する。 勉強会への参加をボランティアに呼び掛ける。
見直しが必要な項目	リクエストの状況等を考慮しつつ、図書館側から作成を依頼する本の選書を行う。 大活字本の利用が増えるようなPR方法を検討する。 勉強会の講師に対面朗読のボランティアを対象にした内容の勉強会にってもらうように依頼する。

4. 平成27年度 事中評価結果 CHECK・ACTION 平成28年度 事前評価結果 PLAN	
事業の方向性	B：現状のまま継続
活動単位の選択と集中	協力員（ボランティア）と協議しながら、新規録音図書の作成を依頼していく。 小さい字が読みづらい高齢者に対し、大活字本のPRを検討する。 勉強会への参加を協力員（ボランティア）に呼び掛ける。
具体的な改革・改善の内容・時期・効果	利用者のリクエストの状況等を考慮しつつ、図書館側から録音図書の作成を依頼する本の選書を行う。 勉強会の講師に協力員（ボランティア）を対象にした内容の勉強会を開催した。
活動単位の中長期的な方向性	視覚障害者の学ぶ権利の保障と情報を得るひとつの手段として欠くことができない事業である。 協力員（ボランティア）は図書館の財産でもある。相互に協力を求め、資質の向上に寄与していきたい。これが視覚障害者サービスに繋がっていくものと考えている。